

2021年度 学部4年生対象 卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

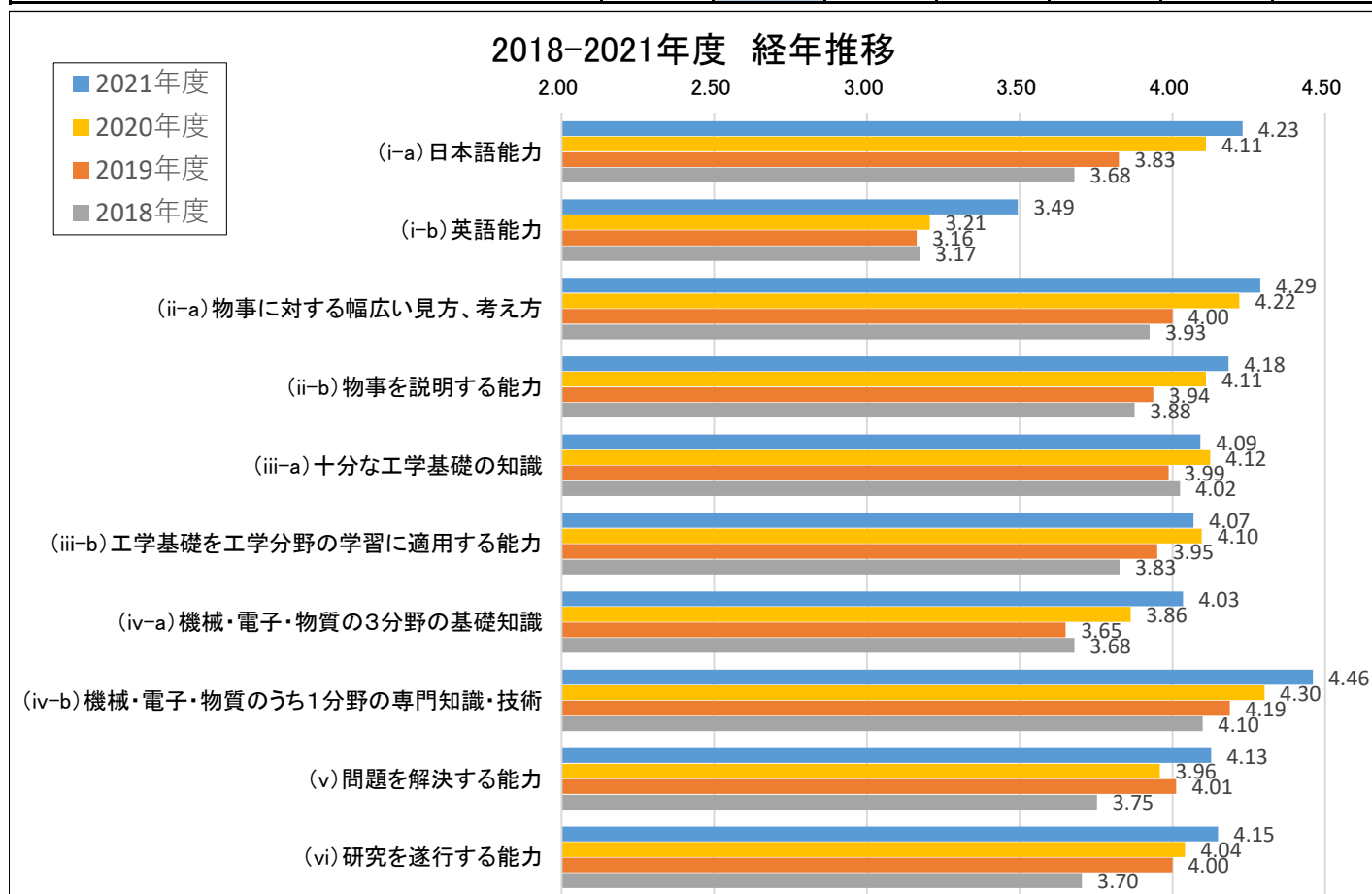
【設問】大学生生活全般を振り返り、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。(2022年2月調査実施)

＜主な活動・出来事＞

1年次全寮制、講義・演習・実験・実習科目、教養科目、単位互換科目、英語科目、工学基礎科目、専門科目、学外実習、主専攻・副専攻履修、定期試験、レポート作成、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、海外英語演習、課外活動(同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ)、アカデミックアドバイザー・指導教員の指導、課題研究・卒業研究、研究発表会、就職活動 など

【回答集計】

2021年度	回答率100%(回答者数87名/卒業生数87名)					回答数	平均
	身についた (5点)	まあ身についた (4点)	どちらとも言えない (3点)	あまり身につかなかった (2点)	身につかなかった (1点)		
(i-a) 日本語能力	28	51	8	0	0	87	4.23
(i-b) 英語能力	16	32	21	15	3	87	3.49
(ii-a) 物事に対する幅広い見方、考え方	37	40	9	0	1	87	4.29
(ii-b) 物事を説明する能力	29	45	13	0	0	87	4.18
(iii-a) 十分な工学基礎の知識	22	52	12	1	0	87	4.09
(iii-b) 工学基礎を工学分野の学習に適用する能力	23	50	12	1	1	87	4.07
(iv-a) 機械・電子・物質の3分野の基礎知識	21	50	14	2	0	87	4.03
(iv-b) 機械・電子・物質のうち1分野の専門知識・技術	43	41	3	0	0	87	4.46
(v) 問題を解決する能力	29	44	10	4	0	87	4.13
(vi) 研究を遂行する能力	31	41	13	1	1	87	4.15



【結果考察】

- ・調査対象の2021年度4年生は、3・4年次をコロナ禍で過ごした学生である。ただし、4年次は研究を含めほぼ対面で活動。
- ・2018年度の調査開始以来、評価は上昇傾向にある。(大きなカリキュラム変更はなし、教員個々の授業改善は推進)。
- ・英語能力以外の評価ははいずれも4.0以上で、学修成果が高いと言える。
- ・英語能力は唯一4.0を下回っているが、他団体が実施している調査でも同様に評価結果が低い傾向が見られる。データ上は、TOEICスコア平均値は、入学時(478点)→卒業時(599点)へと120点超の向上が見られる。